

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

平成30年8月11日

京都府知事 様



提出者

住 所 京都府宮津市字惣262番地

氏 名 グンゼ株式会社宮津工場

工場長 宇都宮 和弘

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0772-22-5111

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	グンゼ株式会社宮津工場
事業場の所在地	京都府宮津市字惣262番地
計画期間	平成30年4月1日～平成31年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

① 事業の種類	ニット製下着製造業
② 事業の規模	3,705百万円
③ 従業員数	195名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	(別紙1)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図)			
(別紙2-1、別紙2-2)			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度(2017年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥、廃プラ、廃油	(別紙3)
	排出量	1,680.210 t	t
	(これまでに実施した取組) (汚泥) 微生物処理方法の改善(継続) (廃プラ) 発生量削減 (廃油) 発生量削減		
② 計画	【目標】2018年度		
	産業廃棄物の種類	汚泥、廃プラ、廃油	(別紙3)
	排出量	1,904.000 t	t
	(今後実施する予定の取組) (汚泥) 微生物処理方法の改善(継続) (廃プラ) 発生量削減 (廃油) 発生量削減		
産業廃棄物の分別に関する事項			
① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) (別紙2-2)		
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 現状維持向上(分別状況点検と現場指導強化)		

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（2017年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】2018年度		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（2017年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	1,446.800 t	- t
	(これまでに実施した取組) ・脱水処理速度の適正化による汚泥量減少 ・送風機取り付けによる汚泥量削減		
② 計画	【目標】2018年度		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	1,635.000 t	t
	(今後実施する予定の取組) ・脱水処理速度の適正化による汚泥量削減（継続） ・送風機取り付けによる汚泥量削減（継続）		

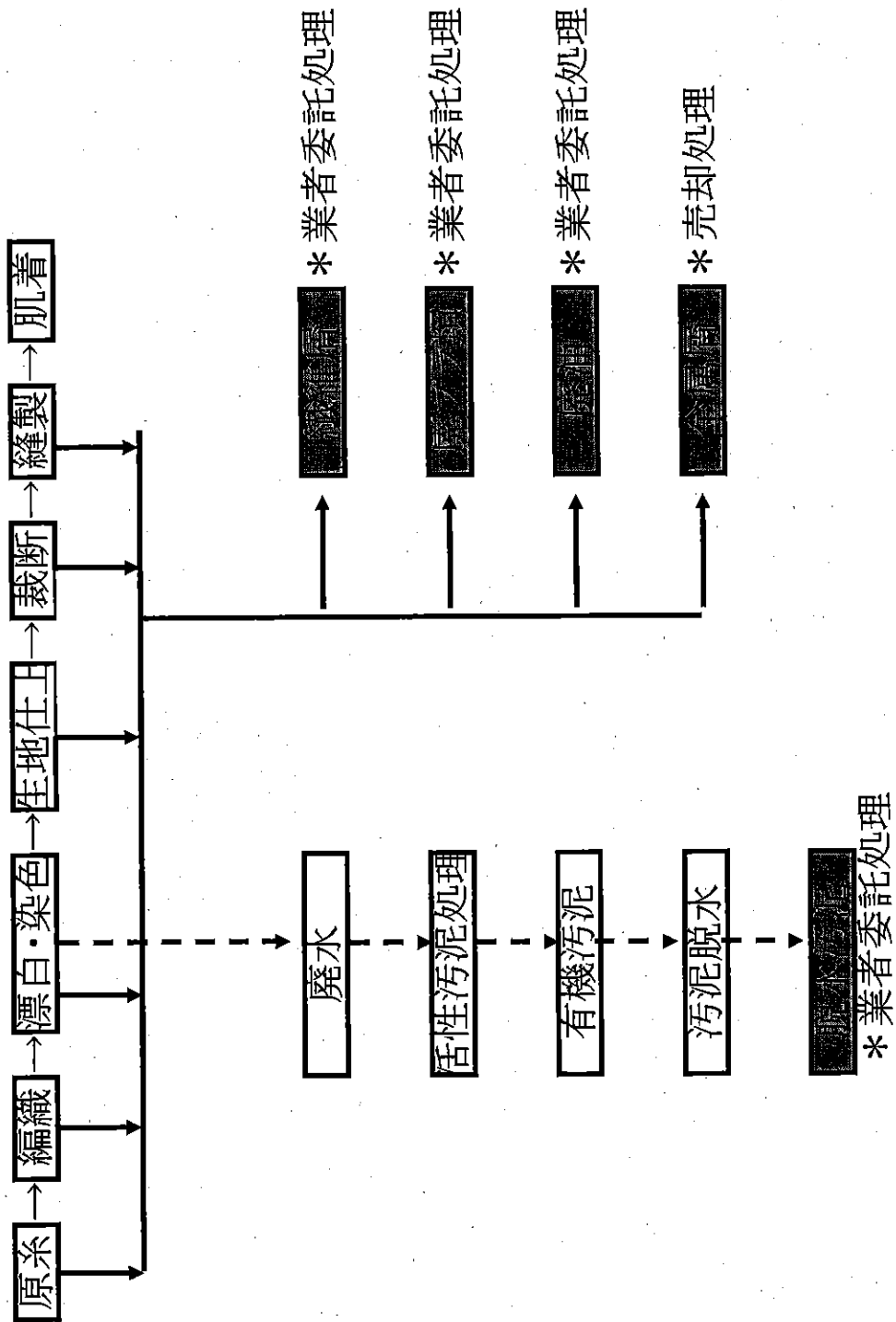
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（2017年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t
	(これまでに実施した取組)		
② 計画	【目標】2018年度		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（2017年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥、廃プラ、廃油	(別紙4)
	全処理委託量	233.410 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	233.410 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) ※分別精度の維持向上 ・脱水汚泥：セメント原料 ・廃プラ：RPF ・廃油：助燃材		

② 計画	【目標】 2018年度		
	産業廃棄物の種類	汚泥、廃プラ、廃油	(別紙4)
	全処理委託量	269.000 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	269.000 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
(今後実施する予定の取組) ※分別精度の維持向上 ・脱水汚泥：セメント原料 ・廃プラ：RPF ・廃油：助燃材			
※事務処理欄			

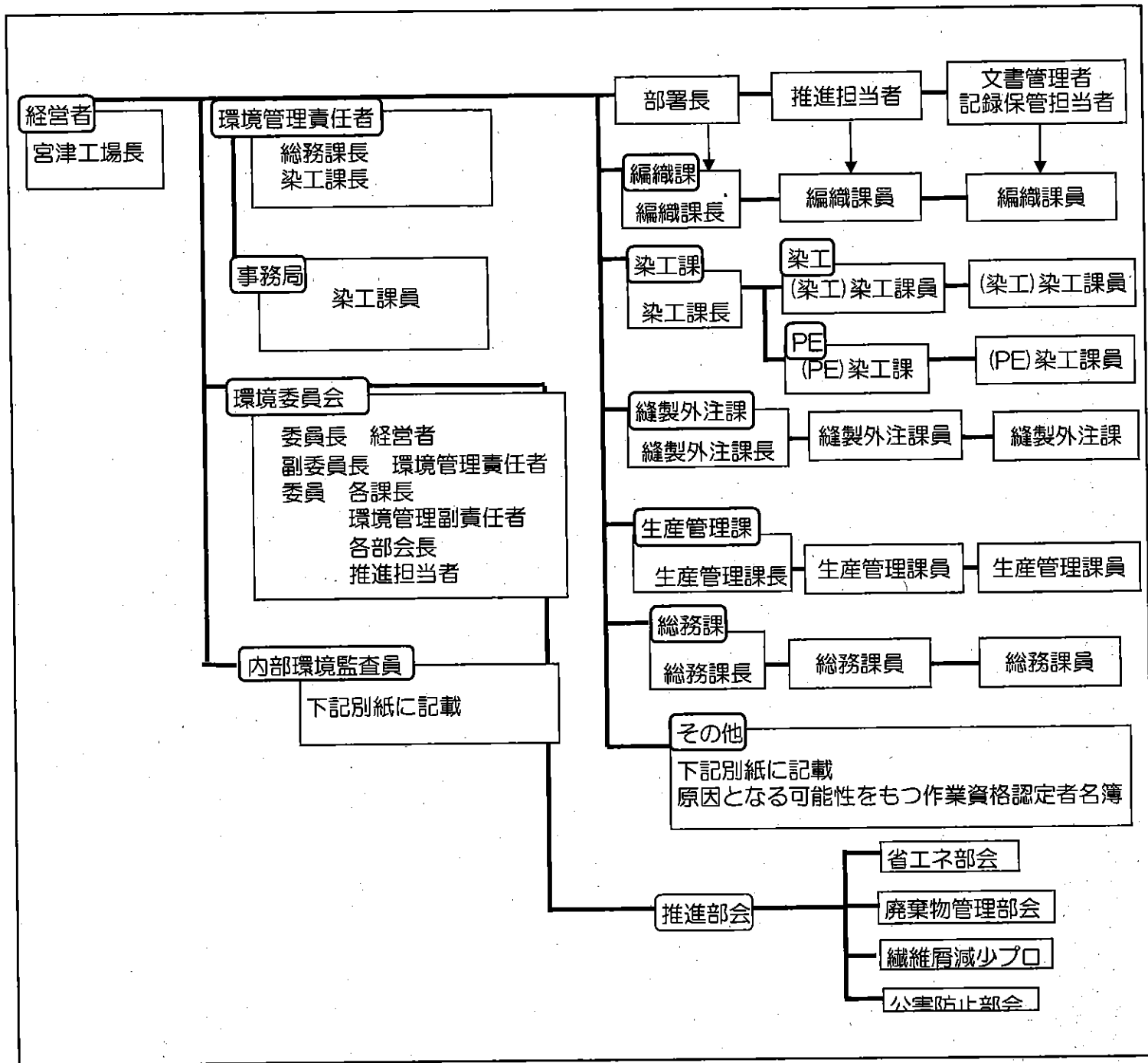
備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

(別紙1)
 廃棄物発生工程 (製造業は製造工程概要含む)、事業場内処理フロー



環境マネジメント組織図 (宮津工場)



(別紙2-2)

産業廃棄物の分別(宮津工場)

廃棄物 No	分類	廃棄物名	入物	置場 No	
1-1	紙類	紙屑①	ダンボール、デカ箱	ダンボール	1-2
1-2		紙屑②	上質紙(PPC用紙、ケント紙ブランクシート 他)		3
1-3		紙屑③	新聞、雑誌、カタログ 他		1-6
1-4		紙屑④	紙管、シュレッダー 再生紙、薬品袋 ハロン紙他		3、1-2(紙管) 1-8(薬品袋)
1-5		紙屑⑤	汚れた紙(50×50以下)	無地袋	6, 7
2	汚泥				2
3-1	廃プラ	① 非塩ビ系	生地包装材 PPバンド、リサイクルプラ文具、包装材 他トレイ、荷造り用 他 マグネットシート、カーボン紙	無地袋	6, 7 、10
3-2		② 塩ビ系	塩ビ配管、ハーコート用リボン	無地袋	5
4-1	繊維屑	副産物、ガシガ屑			4、10
4-2	ウエス	汚れた繊維	無地袋		6, 7
5	金属	薬品缶、油缶 工事廃材、針、ホチキスなど	-		8
6	廃油	機械用油、テルマ			9
7	ガラス屑	びーカー、窓ガラス他	-		1-7
8	木屑		-		6, 7
9-1	その他	① 燃やすゴミ	ティッシュ、茶殻 清掃ゴミ 他	無地袋	1-3
9-2		②	蛍光灯(250g/本)、乾電池	-	1-5
9-3		③ 医療系	注射針 他 感染性廃棄物		
10	混合	発泡スチロール、ゴム、サンドペーパー、その他複合廃棄物	-		5
11	PCB	PCB			12、13
12	アスベスト	アスベスト			14
13	有価物	原糸袋、PPバンド			6
11	PCB	PCB			12、13
12	アスベスト	アスベスト			14

別紙3

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

	①現状(2017年度実績)単位[t] 排出量	②計画(2018年度目標)単位[t] 排出量
汚泥	1,638.310	1,835.000
廃プラスチック類	41.310	68.000
廃油	0.590	1.000
合計	1,680.210	1,904.000